

●表現●

(2) 母語ではないことばで表現している作家がほかにいないか調べ、その作品を読んでみよう。

以下に挙げる作家は、「表現(2)」の課題の一例である。ほかにも探して、読んでみよう。

●日本出身の作家

多和田葉子 一九六〇年—。小説家。日本に生まれた。日本語を母語とする。一九九五年、バイエルン州芸術アカデミーからドイツ語を母語としないドイツ文学作家に贈られるシャミッソー賞を、二〇一六年、ドイツの権威ある文学賞であるクライスト賞を受賞。

◆主な作品 『かかとを失くして』『ヒナギクのお茶の場合』『容疑者の夜行列車』『尼僧とキューピットの弓』『雪の練習生』『雲をつかむ話』『犬婿入り』『地球にちりばめられて』『献灯使』『星に仄めかされて』など。



カズオ・イシグロ 一九五四年—。小説家。日本に生まれた。幼少期にイギリスに移住、のちにイギリス国籍取得。一九八九年、英語による小説『日の名残り』で、ブッカー賞を受賞。二〇一七年、ノーベル文学賞受賞。

◆主な作品 『遠い山なみの光』『日の名残り』『わたしたちが孤児だったころ』『わたしを離さないで』など。



A Pale View of Hills 早稲田書房

●日本語以外の言語を母語とし、日本語で創作する作家

アーサー・ビナード 一九六七年—。詩人。俳人。エッセイスト。翻訳家。アメリカ合衆国に生まれた。英語を母語とする。二〇〇一年、日本語による詩集『釣り上げては』で中原中也賞、二〇〇五年、『日本語ぼこりぼこり』で講談社エッセイ賞を受賞。

◆主な作品 『釣り上げては』『日本語ぼこりぼこり』『出世ミミズ』『日々の非常口』『知らなかった、ぼくらの戦争』『もしも、詩があったら』など



楊逸 (ヤン・イー) 一九六四年—。小説家。中国に生まれた。中国語を母語とする。二〇〇八年、日本語による作品「時が滲む朝」で芥川賞を受賞。日本語以外の言語を母語とする作家としては初めての受賞となった。

◆主な作品 「ワンちゃん」「流転の魔女」「陽だまり幻想曲」「あなたへの歌」



温又柔（おんゆうじゅう） 一九八〇年—。小説家。台湾に生まれた。中国語を母語とする。二〇〇九年、日本語による作品「好去好来歌」ですばる文学賞佳作、二〇一六年、『台湾生まれ、日本語育ち』で日本エッセイストクラブ賞受賞。

◆主な作品 『来福の家』『真ん中の子どもたち』『空港時光』『「国語」から旅立って』など



シリム・ネザマフィ 小説家。イランで生まれた。ペルシャ語を母語とする。二〇〇九年、日本語による作品「白い紙」で文学界新人賞を受賞、芥川賞候補となる。

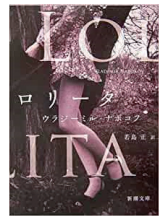
◆主な作品 『白い紙／サラム』



●上記以外の、母語と違う言語で創作した作家

ウラジミール・ナボコフ 一八九九—一九七七年。小説家。ロシア帝国に生まれた。ロシア語を母語とする。一九四五年、アメリカ合衆国に帰化。英語による作品で世界的に注目された。

◆主な作品 『ロリータ』『賜物』『セバスチャン・ナイトの真実の生涯』



ミラン・クンデラ 一九二九年—。小説家。チェコスロバキアに生まれた。チェコ語を母語とする。一九八一年フランス市民権を取得、以後、フランス語による作品を発表する。

◆主な作品 『存在の耐えられない軽さ』『不滅』『無知』など。



アゴタ・クリストフ 一九三五—二〇一一年。小説家。ハンガリーに生まれた。ハンガリー語を母語とする。一九五六年、オーストリアを経由してスイスに移住。フランス語による作品で世界的に注目された。

◆主な作品 『悪童日記』『ふたりの証拠』『第三の嘘』『昨日』『どちらでもいい』『文盲』『アゴタ・クリストフ自伝』『怪物—アゴタ・クリストフ戯曲集』『伝染病—アゴタ・クリストフ戯曲集』



ヤスミナ・カドラ 一九五五年—。小説家。アルジェリアに生まれた。アラビア語を母語とする。二〇〇五年にフランス国籍を取得。フランス語による作品を発表する。

◆主な作品 『カブールの燕たち』『テロル』『昼が夜に負うもの』など。

